

臨地実習（がん看護学 / 教育・研究コース）

[実習] 後期 必修 90時間 2単位

《担当者名》○平 典子 [hiran@hoku-iryo-u.ac.jp]
熊谷 歌織 [kaori@hoku-iryo-u.ac.jp]
三津橋 梨絵 [mitsuhashi@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

学生の関心にもとづき、がん患者および家族に対する専門的な看護実践を探究するあるいは研究課題を整理するために、実習目標を設定し自己の課題を探究する。

【学修目標】

1. 既習の関連科目での学習を統合し、関心のある領域に対して、がん患者および家族の包括的なアセスメント、QOL向上を目指した看護実践を探究できる。
2. これまでの臨床体験から抱いた疑問について、情報収集や看護実践を実施し、抱いた疑問の本質、その疑問に関連する患者や医療の状況を整理し、研究課題を整理できる。
3. がん看護の専門性を高める上での自己の課題とそれに対する取り組みについて探究できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	実習方法	1. 臨地実習における学習課題を踏まえ、自己の実習課題を明確にし、実習計画書を立案する。 2. 実習指導者および教員の助言を得ながら、実習計画書に添って実習する。 3. 実習内容および学びについて、日々、実習記録に整理し、実習指導者から助言を得る。 4. 実習課題の達成を図るために、実習の中間において、実習指導者および教員とカンファレンスを持つ。時期については、実習指導者、教員とともに調整し決定する。カンファレンスにあたって、実習生は実習課題に関する資料を作成する。	平 熊谷 三津橋
	実習場所	各自の実習目標に沿って選択する。	
	実習期間	おおむね2週間とする。	

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習課題の達成状況(50%)、レポート(50%)を総合的に評価する。

【学修の準備】

既習の知識を復習して実習に臨む。